

令和5年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
笑顔あふれる 元気な子	つながる楽しさ を感じよう	・職員が子どもたちや保護者一人ひとりに丁寧に「おはよう」「こんにちは」「さようなら」と声をかけている	保育者から「〇〇さんおはよう」等と名前を呼んで挨拶をしてきた事で、子ども達からも進んで挨拶をする姿がみられるようになってきた。子どもと保育者の挨拶が増えた事で保護者からの挨拶やコミュニケーションも増えた。	B	B	・挨拶では、小学6年生が昇降口に立って積極的にあいさつ運動を行っている。少しずつ挨拶できる子どもが増えている ・放課後遊びクラブでは、挨拶する子どもは少ない ・園庭の遊びの様子を見て異年齢同士関わって良く遊んでいると感心した。 “つながる”を意識している ・次の遊びのことを考えて進めていこうとすることは大切なことだと感じる	・挨拶については今後も継続して取り組んでいく ・子どもの気づきや思いを捉える事はできているので引き続き子どものつぶやきや思いを肯定的に受け止めそこから遊びが広がっていくよう環境構成をしていく ・子どもと一緒に準備をしたり片付けをしたりする事で「どこで何をしたいか」や「とっておく物や場所」を一緒に遊びの始まりを考えた準備をしたり、終わりを見届けて次の遊びにつなげたり、環境づくりをしたりする
		・子どもの気づきや表情や声、仕草に寄り添い、思いを肯定的に受け止めている	保育者が子どものつぶやきや遊びの姿を肯定的に捉え、「いいね」「やってみよう」と共感したり、一緒に遊ぶ事を大切にしている。また、子どもの表情や仕草から言葉にできない思いも汲み取り、子どもと保育者、子ども同士もつながり合っているようにしている。	B	A		
		・遊びの始まりと終わりを丁寧に見届けて遊びが広がるようにしている	昨日の遊びを思い出して遊びが始められるよう、写真や遊び地図を活用し遊びを視覚化した。また、室内戸外共に遊びが見える位置にとつき棚を変えたり、スペースを新たに作ったりすることで、「明日もやりたい」という思いをもって遊びの終息が出来るようにしてきた。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・個人差に配慮し、一人ひとりの興味や発達を理解して教育・保育をしている	職員は園内研修等を通して発達の学びを深めている。子ども一人ひとりの遊びの様子や発達を踏まえ、職員間で共有し、保育計画を作成している。子どもの姿から、環境、保育者の手立てに繋がった保育を実践している。	B	A	・研修の中で職員が“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を意識できている ・家庭の生活は何パターンもあり、生活習慣の改善を図ることは容易ではない。伝えていくことは大切ではないか ・学校もノーメディアデーを設けているが、大人も含めて難しさは感じている ・防災訓練については、これからも継続していくことを期待している	異年齢で遊ぶ時にもその学年に合った素材や用具を用意し、遊びたい事が十分楽しめるようにしていく。 家庭と園とで一貫した保育が行われるよう、引き続き家庭と職員の情報共有を丁寧に行っていく。 ・様々な材料や素材と出会い多様な経験が積み重なっていくよう、見通しをもち十分な教材の準備が必要である ・子どもが必要なものを選択し遊びを楽しめるよう、興味や季節に合わせた玩具の入れ替え及び玩具庫や教材庫の整理、見直しをする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・様々な家庭環境がある事を理解し、子どもが集団生活の中で出来るだけゆったりと安心して過ごせる様になっている	一人ひとりの生活リズムや様々な家庭環境に配慮し、職員は連携を図ることで個に合わせた関わりを丁寧に行っている。保護者支援では生活リズムが夜型の家庭への伝え方が課題である。	B	B		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの気づきや試行錯誤する姿を捉え、環境構成をしている(言葉がけ、見守り、教材の準備等)	子どもの姿やつぶやきからどのような環境が良いのかを保育者自身が考え環境構成をすることで、子どもが主体となり生き生き遊ぶ姿につながっている。また、子どもが手に取りやすく遊びたいときに遊べる環境づくりも行っている。	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・想定される災害時に取るべき行動を一人ひとりが理解し、職員間で連携して避難、誘導ができている	各職員が役割を意識して行動している。声を掛け合って避難することができている。今後につなげるためにも、反省等を会議の中で報告し、職員全体に共有する事と今一度どのような経路で避難をするのか話し合っていく必要がある。	B	A	・それぞれの訓練を実施した後、反省や課題を会議で報告し共有していく ・様々な想定の下で訓練を行い、意識を高めていく 決められた場所に片付けることを意識し子どもの手本となる事が必要である。写真やイラストで片付ける場所を示したり、定期的に倉庫の整理をしたりし誰もが片付けやすい環境にする。	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・使った物を片付けて整理整頓をする事を保育者が手本となるようにしている	保育者が子どもたちに片付けることを伝えたり、一緒に行ったりすることで少しずつ率先して片付ける子が出てきた。保育者も決められた場所に必ず戻す事を継続していく。	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・支援が必要な子どもについて、主に関わる職員同士で支援方法を話し合い、それを職員間で共有して指導に当たっている	職員間で情報を共有することはできているが、実際に関わると共有の通りにはならないこともあるため、担任にその日の支援児の様子に対しての関わり方を確認して保育している。	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・分掌担当で話し合う時間を設け情報を共有しながら園全体で分掌に取り組んでいる	行事は分掌が責任を持ち、早めに企画を立てることによって、余裕をもって準備実施することができた。皆で分掌して仕事ができるように細かい伝達をもっと密にしていきたい。	B	B	・分掌同士で話し合う場をもち職員間の伝達をこまめに行う。 ・一人に任せるのではなく、皆で協力して進めていく 研修日よりだけでなく、園内研修に参加できない職員にも直接言葉で伝えていくことや、研修を2部制にしていくなど研修体制の工夫もしていく。また、つながりを意識するために、研究保育後の職員の取り組みと子どもの遊びの様子を伝える機会をつくっていく。	
6 研 修	(1)研修体制の充実	・研修部を中心に年間計画に沿って園内研修が実施され、子どもたちの「もっとやりたい」につながるような学びを教育・保育に生かしている	研修の手立てをわかりやすくしたことで、若手職員も含めて研究保育の際温かい雰囲気の中で子どもの姿を語り合うことができていた。全職員が研究保育を参観できる体制をつくっていることで多面的な保育の見方をする事につながってきている。	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・子どもの興味や関心をとらえ、遊びを発展させることができる素材の準備、提供をしている	子どもの興味関心ややりたいことをキャッチし、「今」のタイミングで教材や遊びを提供できるよう、保育者も一緒に遊ぶ中で子どもの声に耳を傾け環境を用意してきた。今年度作成した築山やや泥団作りコーナーは、子どものお気に入りの遊び場となっている。	B	A		・室内、室外で遊びの環境を工夫している様子が見られると思う
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・子どもの育ちや遊びの姿や内容を保護者へ簡潔に分かりやすく伝えている(ボード、おたより、連絡ノート等)	連絡ノートや写真を利用したクラスボードで保護者に伝わるような書き方を工夫している。また、送迎で園内に入り担任と話をする機会も増えている。参加会等を活用し、保護者との個別に面談の時間を作り、こども理解を深めた。	B	B	・小学校では、TETORU(小・中学校)を導入して保護者と情報共有している。導入されてから何年間か経ったが、慣れてくるとお便りがすぐに保護者に届き、便利な面もある。こども園でも保護者とのITを通しての連携に期待する	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣園や長田南小学校との連携を大切にし、公開保育や公開授業を通して連携を図っている	年長児が近隣園と一緒に敬老会や粘土教室、サッカー教室に参加したり、長田ブロック交流会を実施したりと交流の場が増えてきた。また、散歩で小学校へ行くどんぐりを拾わせてもらったり、小学校の公開授業に招待してもらったりと小学校との交流も再開することが出来た。	B	A	今後でも連携を継続し、交流できる方法を考えていく。小学校の公開授業に参加したり、公開保育を見にきて頂いたりして、スムーズな小学校への移行が出来るようにしていく。	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・保護者会、地域と信頼関係が結ばれた園を目指し、交流の機会を大切にしている	地域の行事(広野文化展、広野病院の敬老会等)に参加した。地域のお年寄りの方と一緒に交流し、踊りや歌を披露して喜んでいただいた。またS型ディスプレイ(ももクラブ)に参加し地域のお年寄りの方と交流し、喜んで頂いた経験が子ども達の自信につながった。また、発表会や運動会に地域の方の参加を再開させ、交流の機会をつくる事ができた。	A	A	地域の方に見守られているという思いを大切に、来年度もトライアスロン、ももクラブ、広野文化展等に積極的に参加していく。また、地域の持つ資産にも目を向け関心を高めて行くようにする(もも、しらす、わかめなど)	